



会 議：国際海事機関（IMO）第 81 回海洋環境保護委員会（MEPC 81）

開催場所：国際海事機関（IMO：英国ロンドン）及びオンラインのハイブリッド

会議期間：2024 年 3 月 18 日～3 月 22 日

海技研からの出席者：

現地参加 高橋 千織：GHG 削減 PT リーダー

益田 晶子：環境・動力系長

黒田 麻利子：流体設計系実海域性能研究グループ グループ長

太田 進：研究特命主管（日本船舶技術研究協会審議役）

Web 参加 和田 祐次郎：知識・データシステム系知識システム研究グループ 主任研究員

概要：海洋環境保護委員会（MEPC）は、

- バンカリング時の燃料油サンプリング手法について、MARPOL 条約附属書 VI および SOLAS 条約 II-2 章両方に共通するガイドライン案に合意した。
- メタン（CH₄）、亜酸化二窒素（N₂O）などの CO₂ 以外の GHG に関する枠組み、船上 CO₂ 回収に関する枠組み策定については、通信部会（CG）でさらに議論することに合意した。
- 就航船のエネルギー効率指標（EEXI）に係る出力制限についてのガイドラインについて、操船時の安全性を考慮した修正提案が支持を集め、適切な修正を行ったうえで採択した。
- LCA ガイドラインの更なる改善のための専門家グループ（GESAMP ワーキンググループ（GESAMP-LCA WG））の設立について議論し、付託事項（ToR）に合意した。

主な貢献

高橋は、大気汚染の防止（議題 5）及び船舶のエネルギー効率（議題 6）を担当し、同議題の作業部会（WG 1）にも参画し、審議に貢献した。

益田は、大気汚染の防止（議題 5）を担当し、同議題の作業部会（WG 1）にも参画し情報収集および一部の報告書作成を行った。

黒田は、船舶のエネルギー効率（議題 6）を担当し、同議題の作業部会（WG 1）にも参画し、審議に貢献した。

和田は、船舶からの GHG 排出の削減（議題 7）を担当し、同議題の作業部会（WG 2）にも参画し、審議に貢献した。

太田は、主として日本船舶技術研究協会審議役として参加し、義務規則改正の検討と採択（議題 3）の審議を担当し、同議題の起草部会（DG）にも参画し、審議に貢献した。



和田



主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 議題3 義務規則改正の検討と採択

委員会は、以下の改正案等を採択した。

- 電子記録簿の位置づけに係るバラスト水管理条約改正案（2025年10月1日発効予定）
- コンテナ流出の報告に係る MARPOL 条約議定書I第5条の改正案（2026年1月1日発効予定）
- 燃料消費実績報告制度（IMO DCS）の報告項目の詳細化等に係る MARPOL 条約附属書 VI の改正案（2025年8月1日発効予定）
- 機関を交換する際に MARPOL 条約附属書 VI 第 13.2.2 規則によって NOx Tier III 規制の適用除外とすることに係る新ガイドライン

2 議題5 大気汚染の防止

- バンカリング時の燃料油サンプリング手法について、MARPOL 条約附属書 VI および SOLAS 条約 II-2 章両方に共通するガイドライン案を委員会は承認した。本ガイドラインは、海上安全委員会（MSC）で再度承認を受けたあと発行される見込みである。
- 2021 EGCS ガイドラインの修正案については、十分な支持が得られなかったため、将来の会合にてさらなる提案をするよう委員会は求めた。
- バンカー船によるバイオ燃料およびバイオ燃料混合物輸送に関する暫定ガイダンスは承認されず、今次会合で出されたコメントを考慮し、今後の進め方について化学物質の安全/環境汚染危険性の査定に係る作業部会（ESPH）に助言を求めるとともに、関心のある国・機関に対し、バイオ燃料およびバイオ燃料混合物の安全な使用についての関連提案を将来の MSC 会合に提案するよう委員会は求めた。
- メタン（CH₄）、亜酸化二窒素（N₂O）などの CO₂ 以外の GHG に関する Tank-to-Wake 排出量算出のための枠組み策定および船上 CO₂ 回収に関する規制枠組み策定については、通信部会（CG）でさらに議論することに委員会は合意した。



3 議題6 船舶のエネルギー効率

- 就航船のエネルギー効率指標（EEXI）に係る出力制限についてのガイドラインについて、操船時の安全性を考慮した ICS（国際海運会議所）などによる修正提案が支持を集め、適切な修正を行ったうえで採択した。
- IMO DCS において、ガス運搬船に分類されている LNG 運搬船を、現在のカテゴリー定義に従い LNG 運搬船に分類しなおし、年間のトンマイルあたりの二酸化炭素排出量（AER）の再計算を事務局に依頼する INTERTANKO（国際独立タンカー船主協会）などの提案が採用された。

4 議題7 船舶からの GHG 排出の削減

- 次回 MEPC の前週に開催予定の第 17 回 GHG 中間作業部会（ISWG-GHG 17）の付託事項（ToR）を承認した。
- 次回 MEPC の前に開催予定の第 5 回 GHG 専門家ワークショップ（GHG-EW 5）の ToR を承認した。
- LCA ガイドラインの更なる改善のための専門家グループ（GESAMP ワーキンググループ（GESAMP-LCA WG））の設立について議論し、ToR を承認した。
- LCA 通信部会（CG）において“Other social and economic sustainability themes/aspects of marine fuels（船舶燃料の社会的・経済的持続可能性に関するテーマ/側面）”の検討を進めることに合意した。CG は米国がとりまとめ、MEPC 83 にレポートを提出する予定である。
- IMO net-zero framework の概要案について合意した。今後、この枠組みを利用して中・長期 GHG 削減対策の議論の深化と更なる発展を目指す。
- Fifth IMO GHG study の実施について合意した。次回の MEPC 82 で ToR、タイムライン等の議論を行う予定である。

5 次回会合

次回の海洋環境保護委員会（MEPC 82）は、2024 年 9 月 30 日から 10 月 4 日まで、ロンドンの IMO 本部で開催される予定である。